

2017年度開講

超高齢社会を支える ジェロントロジー概論

(高年齢社会総合研究学)

受講対象
全学の
学部生
大学院生

ジェロントロジーとは、高齢者や高齢社会の諸課題を解決するために生まれた学際的学問です。医学、看護学、理学、工学、法学、経済学、社会学、心理学、倫理学、教育学などの幅広い領域を包括します。2030年には3人に1人が65歳以上という超高齢社会を迎える日本では、専門分化した学問だけでは対応が難しい複雑な問題が生じてきています。ジェロントロジーを学ぶことは、将来どの専門領域に進む上でも非常に有用です。

必修科目シラバス

夏学期 高年齢社会総合研究学概論Ⅰ 高齢者の体と心：老いとつきあう

学部	工学部
時間	水曜日6限 18:45 - 20:30
場所	工学部11号館講堂
単位数	2単位
責任教員	大方潤一郎 (大学院工学系研究科都市工学専攻 高年齢社会総合研究機構・機構長)

月/日	担当名	所属	テーマ
4/12	飯島 勝矢	高年齢社会総合研究機構	なぜ老いる? ならば上手に老いるには?
4/19	秋下 雅弘	医学系研究科	疾病・障害とヘルスプロモーション
4/26	秋山 弘子	高年齢社会総合研究機構	ジェロントロジー：長寿社会を支える学際科学
5/10	山本 則子	医学系研究科	高齢者と看護学
5/17	高山 緑(ゲスト)	慶応義塾大学	知的機能の変化と適応
5/24	牧野 篤	教育学研究科	シニアの学ぶ、働く、遊ぶ
5/31	阿部 啓子	農学生命科学研究科	栄養とエイジング
6/7	上野 千鶴子(ゲスト)	NPO法人ウィメンズアクションネットワーク(WAN)	ケアの当事者学
6/14	伊福部 達	高年齢社会総合研究機構	身体機能を補う福祉工学機器
6/21	孫 輔卿	高年齢社会総合研究機構	老化と生物学
6/28	菅原 育子	高年齢社会総合研究機構	高齢期の社会関係
7/5	会田 薫子	人文社会系研究科	人生の最終段階のケア
7/12	前田 信彦(ゲスト)	立命館大学	高齢者のライフスタイルの変化

冬学期 高年齢社会総合研究学概論Ⅱ 高齢社会のり・デザイン

学部	工学部
時間	水曜日6限 18:45 - 20:30
場所	工学部11号館講堂
単位数	2単位
責任教員	大方潤一郎 (大学院工学系研究科都市工学専攻 高年齢社会総合研究機構・機構長)

月/日	担当名	所属	テーマ
10/4	大方 潤一郎	工学系研究科	活力ある超高齢社会の構想と共創
10/11	白波瀬 佐和子	人文社会系研究科	高齢化の人口学
10/18	朴 孝淑	高年齢社会総合研究機構	自己決定と本人保護
10/25	濱口 桂一郎(ゲスト)	独立行政法人 労働政策研究・研修機構	年齢に基づく雇用システムと高齢者雇用
11/1	岩本 康志	経済学研究科	人口減少社会における年金と社会保障財政
11/8	鎌田 実	新領域創成科学研究科	高齢者の移動を支える
11/15	大月 敏雄	工学系研究科	高齢期の住まい方
11/22	村山 洋史	高年齢社会総合研究機構	高齢期の健康づくり：公衆衛生学の視点から
11/29	柴田 範子(ゲスト)	NPO法人案	小規模多機能型居宅介護
12/6	辻 哲夫	高年齢社会総合研究機構	21世紀の医療・介護・福祉のかたちを考える
12/13	廣瀬 通孝	情報理工学系研究科	シニア×ICT
1/10	後藤 純	高年齢社会総合研究機構	地域包括ケアシステムの地域実装(1)
1/17	橋本 俊明(ゲスト)	高齢者住宅研究所	地域包括ケアシステムの地域実装(2)

選択科目 約50科目のうち8単位

+

必修科目 4単位

必修科目1

「高齢者の体と心：老いとつきあう」

必修科目2

「高齢社会のり・デザイン」

▼ 計12単位分を履修

履修単位の付与 (各学部)

+

修了証の付与 (教育運営委員会)

※ 修了証の発行には、卒業年の4月(10月入学の方は10月)までに、UT-MATEにて申請する必要があります。

総長室直轄の高年齢社会総合研究機構では、ジェロントロジーに関する学際的教育基盤構築の一環として、2008年度より学部横断型教育プログラム「ジェロントロジー」を国内で初めて設置し、高齢者や高齢社会の諸問題に関する学際的な知識を有する学生の育成を行っています。あらゆる分野を目指す学生の参加を歓迎します。

I O G 東京大学 高年齢社会総合研究機構
INSTITUTE OF GERONTOLOGY, The University of Tokyo

お問合せ：edu@iog.u-tokyo.ac.jp TEL/FAX 03-5841-1662
ホームページ：http://www.iog.u-tokyo.ac.jp